

# 3月「Frühlingsanfang」 アントニア・シュルト

日本と同じようにドイツにも「春分の日」という「春に入る」を意味する日がありますが、日本と違って祝日ではありません。3月20日がドイツの春分の日となっています。

その日点が「分点」と呼ばれ、昔から、様々な行事でお祝いされています。なぜかという、まずは1月のコラムの内容を思い出してみましょう。

ドイツの冬は暗くて、寒々しいので、昔の人は太陽が今年も戻ってくるかという不安を抱え、太陽を招くような習慣がたくさん生み出されてきました。その中には、「Osterfeuer」という習慣があります。イースターの時期に焚火の大きさを、火が大きければ大きいほど春が来るのは早いと信じられました。枯れたクリスマスツリーを焼いたら、火がすぐ大きくなり、楽しいです。私なら大好きです。次の日、洋服が必ず煙臭くなるのに。

